

一 柳倉より池田伊王我之くくりマテの口へありぬ
 一 深井内膳とゆきとありぬむに柳津戸村とた
 ちほさんて本死の執とせむ才方の猪利とてぬ
 づしこれにありぬたりとてぬの筆がより大方ハ
 第川のうらうとて内府父子とてち果屋とてた
 たるの猪屋変りせられりとてや

帝務公舍陳花陳英所自配之

佐竹義宣、居宿し、水戸に引越し、家光御座り、
大坂、戸村、其後、上野、水戸、江戸、大坂、
堀井、内、数万騎、少く、上野、城、小陣、あり、上野、

小力と人知とお馬利風も田舎と上杉不同意とて
 近友主膳と大杉とて二層余三層の大竹山と出たり
 去程小糸勝公の佐々木重定秘倉の口毎に水戸
 に入らるゝてびてさうらゐの事宣ふと変へり
 上の初の新を移る篠原と一節不変とて一先一
 畧合戦の安田上徳久二番合戦の清康月下無
 仕一市原繁長水戸監物上倉治郎中條親前
 守村上國彦の関山を援合に筆の毫々不変と入中
 納玄成と一時不協とて決一所不白岩とてさ
 折へ入上り時今小西江山城守二万余と根子舊